

# テクノプロ・グループ 決算説明資料 (2022年6月期 第1四半期)

テクノプロ・ホールディングス株式会社（証券コード：6028）

2021/10/29

# 目次

	Page
I : 業績概要	2
II : KPI分析（国内）	8
i : 技術者数・稼働率	8
ii : 売上単価	12
III : Robosoft社の状況	13
IV : 業績予想	14
V : 株主還元	16
VI : Appendix	17
VII : データ資料集	20

1. 会計数値の単位未満は切捨処理、各種KPIは「国内その他」及び「海外」セグメントを除く数値を記載
2. 売上収益を「売上高」、非支配持分控除後の親会社の所有者に帰属する当期利益を「当期利益」とそれぞれ記載
3. 事業利益は、「売上総利益」から「販売費及び一般管理費」を減算したもので、「その他の収益」や「その他の費用」に計上される特別項目（雇用調整助成金や減損損失等）による影響を除いたものを示す
4. PPA資産償却前営業利益とは、「営業利益」に、M&A時のPurchase Price Allocation（PPA）によって生じた顧客関連資産の償却費、減損損失、Put Option（PO）債務変動損益・早期行使益、Earn-Out（EO）債務変動損益を加減算したものを示す

# 2022年6月期第1四半期 業績概要

- FY22.6 1Qの売上高は**416億円**で前年同期比6.2%の増加、売上総利益は**98.7億円**で同11.0%の増加、事業利益は**37.6億円**で同2.2%の減少、営業利益は**39.4億円**で同9.5%の減少、当期利益は**27.0億円**で同8.9%の減少
- FY22.6 1Qの売上総利益が前年同期比で**11.0%増加**したのは、主に、国内の稼働人数増・待機技術者減により+5.4%、請負・受託事業拡大により+4.3%となる一方、ワクチン接種に伴う有給休暇増を含む稼働日数減により△1.7%のマイナス影響を受けた
- 本格化した採用費を含む販管費の増加を売上総利益の改善でほぼ補い、事業利益の減少は前年同期比**0.8億円**にとどまった

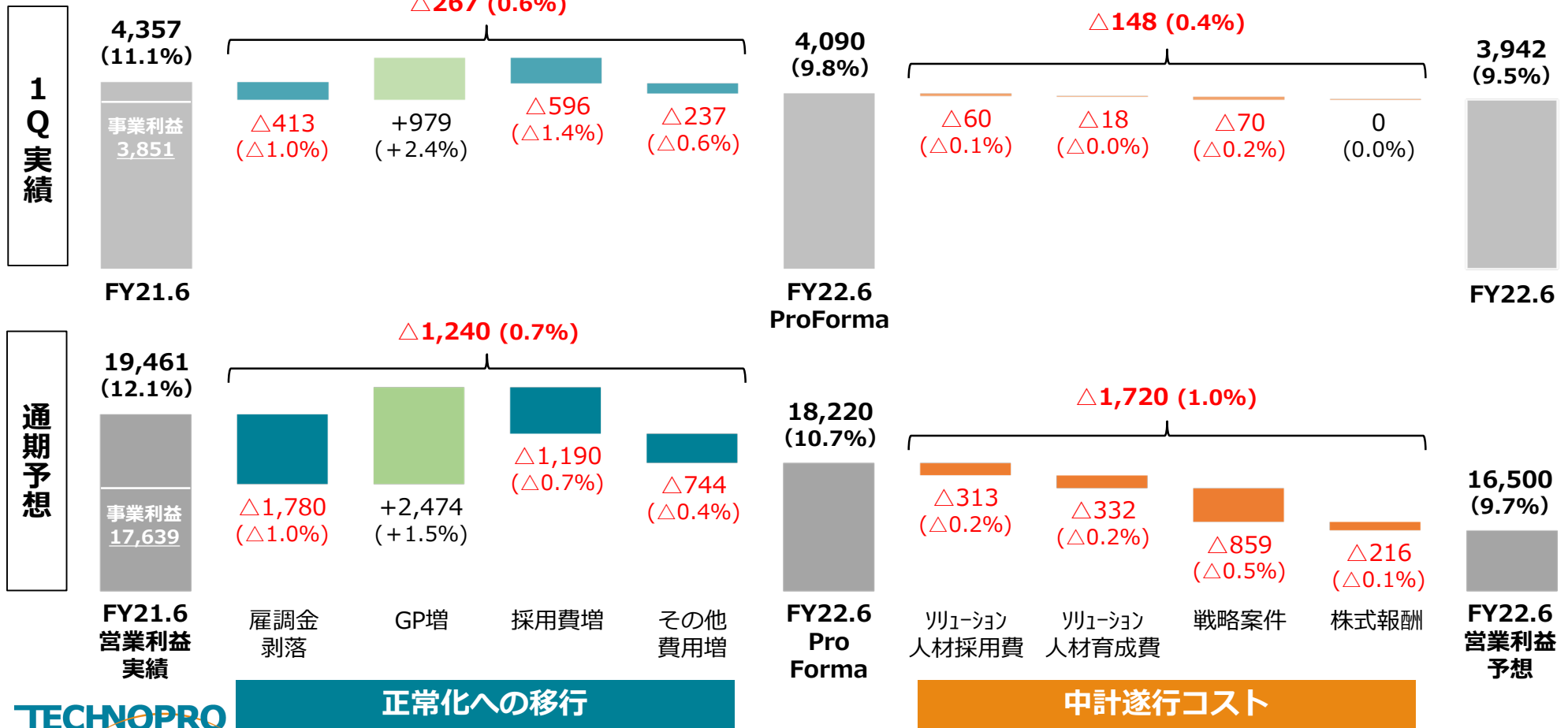
(百万円)

	第1四半期				上半期				通期			
	FY21.6 (実績)	FY22.6 (実績)	前年同期比		FY21.6 (実績)	FY22.6 (予想)	前年同期比		FY21.6 (実績)	FY22.6 (予想)	前年比	
売上高	39,195	41,634	+2,439	+6.2%	79,451	84,000	+4,548	+5.7%	161,316	170,000	+8,683	+5.4%
売上総利益	8,892	9,871	+979	+11.0%	18,523	—	—	—	39,727	—	—	—
売上総利益率	22.7%	23.7%	+1.0pt		23.3%				24.6%			
販売費及び一般管理費	5,040	6,102	+1,062	+21.1%	10,231	—	—	—	22,087	—	—	—
対売上高比率	12.9%	14.7%	+1.8pt		12.9%				13.7%			
事業利益	3,851	3,768	△83	△2.2%	8,291	7,300	△991	△12.0%	17,639	16,500	△1,139	△6.5%
事業利益率	9.8%	9.1%	△0.8pt		10.4%	8.7%	△1.7pt		10.9%	9.7%	△1.2pt	
その他の収益	579	183	△396	—	1,515	—	—	—	2,162	—	—	—
その他の費用	74	9	△65	—	126	—	—	—	340	—	—	—
営業利益	4,357	3,942	△414	△9.5%	9,680	7,300	△2,380	△24.6%	19,461	16,500	△2,961	△15.2%
営業利益率	11.1%	9.5%	△1.6pt		12.2%	8.7%	△3.5pt		12.1%	9.7%	△2.4pt	
税引前当期利益	4,311	3,970	△340	△7.9%	9,645	7,250	△2,395	△24.8%	19,472	16,400	△3,072	△15.8%
当期利益	2,971	2,707	△264	△8.9%	6,623	5,000	△1,623	△24.5%	13,245	11,300	△1,945	△14.7%
当期利益率	7.6%	6.5%	△1.1pt		8.3%	6.0%	△2.4pt		8.2%	6.6%	△1.6pt	
1株当たり当期利益 (円) *	27.58	25.13	△2.45	△8.9%	61.48	46.41	△15.07	△24.5%	122.96	104.89	△18.07	△14.7%
1株当たり配当金 (円) *	—	—	—	—	16.67	20.00	+3.33	+20.0%	61.67	53.00	△8.67	△14.1%

# 営業利益ブリッジ

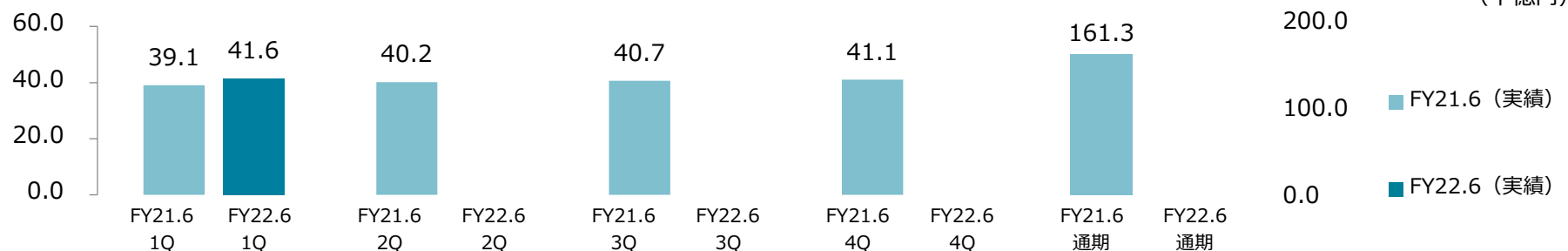
- 稼働人数や売上単価が回復基調にあるGP改善によって、正常化に向かう採用費やその他費用の増加を十分カバーできたが、雇調金の減少幅を補うまでには至らず、この傾向は2Qも継続する見込み
- 1Qの中計遂行コストの計上はわずか148百万円となったが（通期進捗率8.6%）、2Q以降に投資が本格化する見込み

(百万円、対売上高比率)



# 参考) 四半期推移

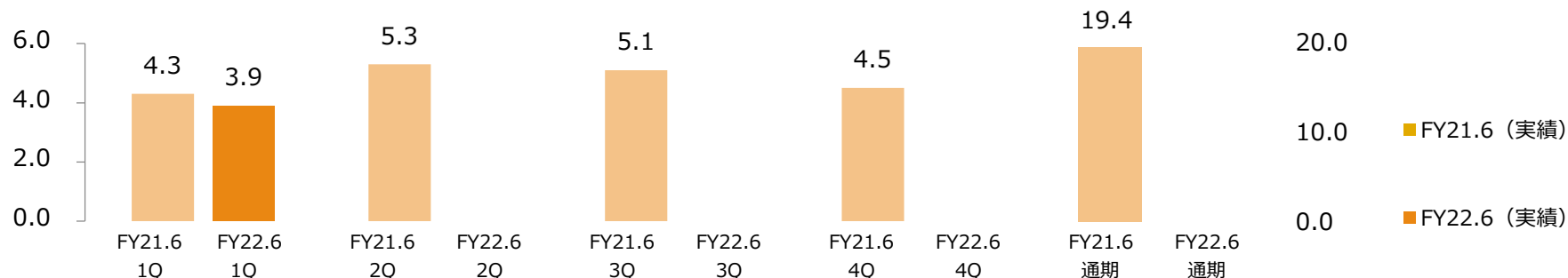
## 売上高



前年同期比	+6.2%		—		—		—		—	
通期進捗率	24.3%	—	25.0%	—	25.2%	—	25.5%	—	100.0%	—
国内平均技術者数	20,795	20,439	20,287	[20,630]	19,986	—	20,229	—	20,324	—
国内平均稼働率	92.7%	95.5%	94.8%	[95.5%]	96.2%	—	94.7%	—	94.6%	—
平均売上単価(千円/月)*	620	639	637	[655]	640	—	639	—	634	—
稼働日数*	56.2	55.7	58.6	[58.7]	56.5	[56.8]	57.7	[57.2]	229.0	[228.4]
1日当たり稼働時間*	8.44	8.49	8.47	[8.49]	8.51	—	8.47	—	8.47	—

※ [ ] 内は、現時点の予想

## 営業利益

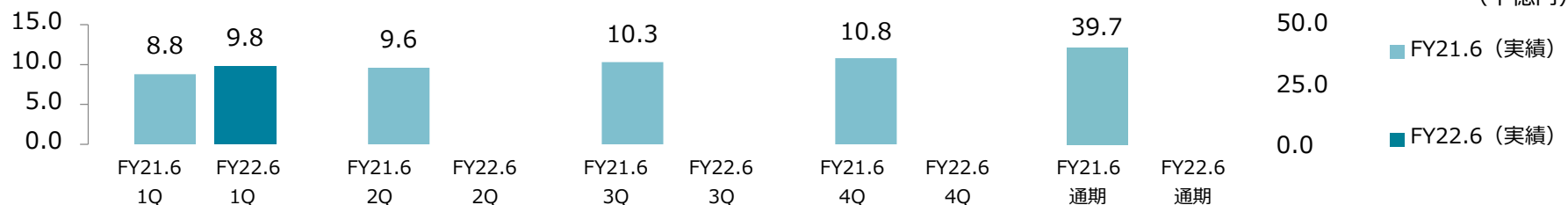


前年同期比	△9.5%		—		—		—		—	
通期進捗率	22.4%	—	27.4%	—	26.7%	—	23.5%	—	100.0%	—
営業利益率	11.1%	9.5%	13.2%	—	12.8%	—	11.1%	—	12.1%	—

\* 主要な国内子会社2社（テクノプロ社、テクノプロ・コンストラクション社）。但し、平均売上単価のみ、FY22.6より国内子会社すべてを対象

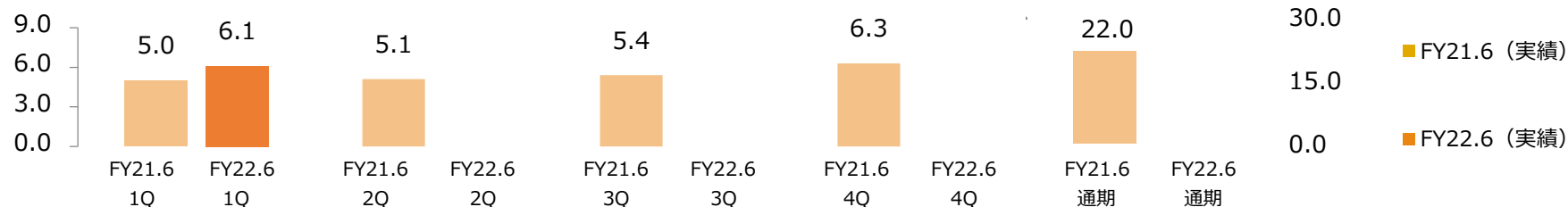
# 参考) 四半期推移 (続き)

## GP



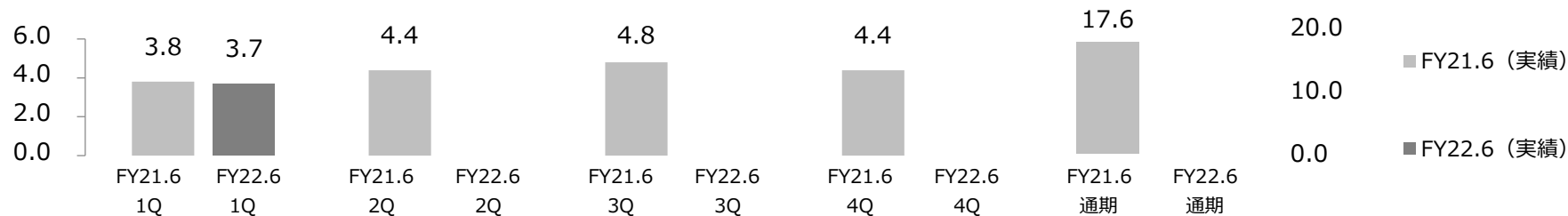
前年同期比	+11.0%		—		—		—		—	
売上総利益率	22.7%	23.7%	23.9%	—	25.4%	—	26.4%	—	24.6%	—

## 販管費



前年同期比	+21.1%		—		—		—		—	
対売上高比率	12.9%	14.7%	12.9%	—	13.4%	—	15.5%	—	13.7%	—

## 事業利益



前年同期比	△2.2%		—		—		—		—	
事業利益率	9.8%	9.1%	11.0%	—	12.0%	—	10.8%	—	10.9%	—

# 2022年6月期第1四半期 セグメント別業績

・ セグメントの区分けについては、Appendix) セグメント表を参照

(百万円)

	R&Dアウトソーシング				施工管理アウトソーシング				国内その他				国内小計			
	FY20.6 1Q	FY21.6 1Q	FY22.6 1Q	前年同期比	FY20.6 1Q	FY21.6 1Q	FY22.6 1Q	前年同期比	FY20.6 1Q	FY21.6 1Q	FY22.6 1Q	前年同期比	FY20.6 1Q	FY21.6 1Q	FY22.6 1Q	前年同期比
売上高	30,819	31,256	32,585	+4.3%	4,824	4,975	4,916	△1.2%	1,008	863	1,101	+27.6%	36,653	37,095	38,604	+4.1%
連結売上高に占める割合	79.2%	79.7%	78.3%		12.4%	12.7%	11.8%		2.6%	2.2%	2.6%		94.2%	94.6%	92.7%	
営業利益	2,924	3,433	2,858	△16.7%	549	785	554	△29.5%	107	△12	206	—	3,582	4,206	3,619	△14.0%
営業利益率	9.5%	11.0%	8.8%		11.4%	15.8%	11.3%		10.7%	△1.5%	18.7%		9.8%	11.3%	9.4%	
PPA資産償却前営業利益	2,944	3,453	2,885	△16.5%	549	785	554	△29.5%	107	△12	206	—	3,602	4,226	3,645	△13.7%
PPA資産償却前営業利益率	9.6%	11.0%	8.9%		11.4%	15.8%	11.3%		10.7%	△1.5%	18.7%		9.8%	11.4%	9.4%	
うちPPA資産償却費	20	20	26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	20	26	—
うち減損損失	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
技術者数（期末時点、人）	17,045	17,984	17,893	△0.5%	2,605	2,647	2,634	△0.5%	—	—	—	—	19,650	20,631	20,527	△0.5%
うち日本在住外国籍（人）	984	1,001	776	△22.5%	64	89	103	+15.7%	—	—	—	—	1,048	1,090	879	△19.4%

	海外				報告セグメント合計				全社/消去*				連結合計			
	FY20.6 1Q	FY21.6 1Q	FY22.6 1Q	前年同期比	FY20.6 1Q	FY21.6 1Q	FY22.6 1Q	前年同期比	FY20.6 1Q	FY21.6 1Q	FY22.6 1Q	前年同期比	FY20.6 1Q	FY21.6 1Q	FY22.6 1Q	前年同期比
売上高	2,586	2,414	3,469	+43.7%	39,239	39,510	42,073	+6.5%	△343	△315	△438	—	38,896	39,195	41,634	+6.2%
連結売上高に占める割合	6.6%	6.2%	8.3%		100.9%	100.8%	101.1%		△0.9%	△0.8%	△1.1%		100.0%	100.0%	100.0%	
営業利益	184	162	245	+51.2%	3,766	4,368	3,865	△11.5%	118	△11	77	—	3,884	4,357	3,942	△9.5%
営業利益率	7.1%	6.7%	7.1%		9.6%	11.1%	9.2%		—	—	—		10.0%	11.1%	9.5%	
PPA資産償却前営業利益	234	212	300	+40.9%	3,836	4,439	3,945	△11.1%	53	△11	77	—	3,889	4,427	4,023	△9.1%
PPA資産償却前営業利益率	9.1%	8.8%	8.6%		9.8%	11.2%	9.4%		—	—	—		10.0%	11.3%	9.7%	
うちPPA資産償却費	50	50	54	—	70	70	80	—	—	—	—	—	70	70	80	—
うち減損損失	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
うちPO債務変動損益・早期行使益	—	—	—	—	—	—	—	—	65	—	—	—	65	—	—	—
うちEO債務変動損益	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
技術者数（期末時点、人）	1,566	1,482	2,869	+93.6%	21,216	22,113	23,396	+5.8%	—	—	—	—	21,216	22,113	23,396	+5.8%

# 2022年6月期第1四半期 B/SとCFの状況

- Robosoft社の第1回株式取得（所有割合80%）の支払対価**87億円**は、M&A用途のコミットメントラインを用いて**65億円**を調達
- 上記ブリッジローンは、2021年10月26日に新規発行した普通社債**100億円**（3年債 50億円+5年債 50億円、R&Iの格付：**A-**）によって全額リファイナンスし、残りの調達資金は、2022年7月のRobosoft社の第2回株式取得（所有割合20%）に充当予定

## FY22.6 1Q末 B/S (十億円)

現預金 22.5	借入金 14.5
IFRS第16号関連資産 9.1	IFRS第16号関連負債 9.1
のれん 47.0	その他負債 34.1
PPA資産 1.9	PO・株式取得債務 6.0
その他資産 39.7	資本合計 56.5

資産合計 120.2

負債及び資本合計 120.2

ネットキャッシュ： 80億円

資本比率\*： 47.0%

のれん/E レシオ\*： 0.83倍

D/E レシオ\*： 0.26倍

D/営業利益レシオ\*\*： 0.88倍

\* 資本合計には、非支配持分を含む

\*\* 営業利益は、通期ガイダンスを使用

## FY22.6 1Q CF (百万円)

・営業CF	△1,466
うち法人所得税支払	△5,665
・投資CF	△7,311
うちM&A（Robosoft社等）による支出	△8,681
うち株式売却（HRnet社）による収入	+1,563
・財務CF	△1,258
うちIFRS第16号関連リース負債の返済	△1,637
うち借入金の調達・返済（ネット）	+6,000
うち配当金支払	△4,849
現預金増減額	△9,980

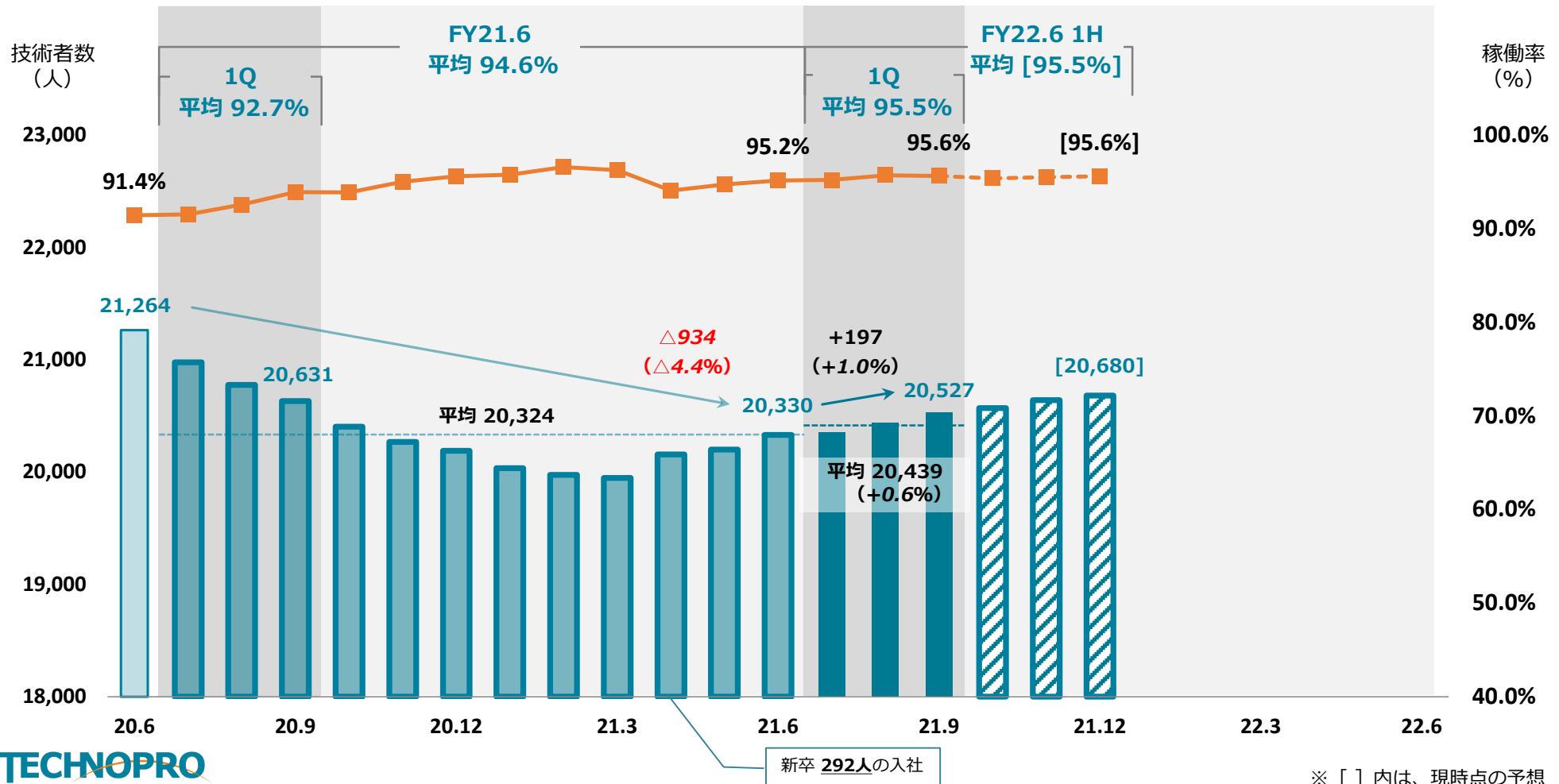
## コミットメントライン (百万円)

資金用途	借入枠	実行残高	未実行残高	期限
1 運転資金	8,000	0	8,000	2022年6月
2 運転資金	1,000	0	1,000	2022年9月
3 運転資金	1,000	0	1,000	2022年10月
4 M&A	10,000	6,500	3,500	2021年12月
合計	20,000	6,500	13,500	



# 技術者数・稼働率の推移（国内）

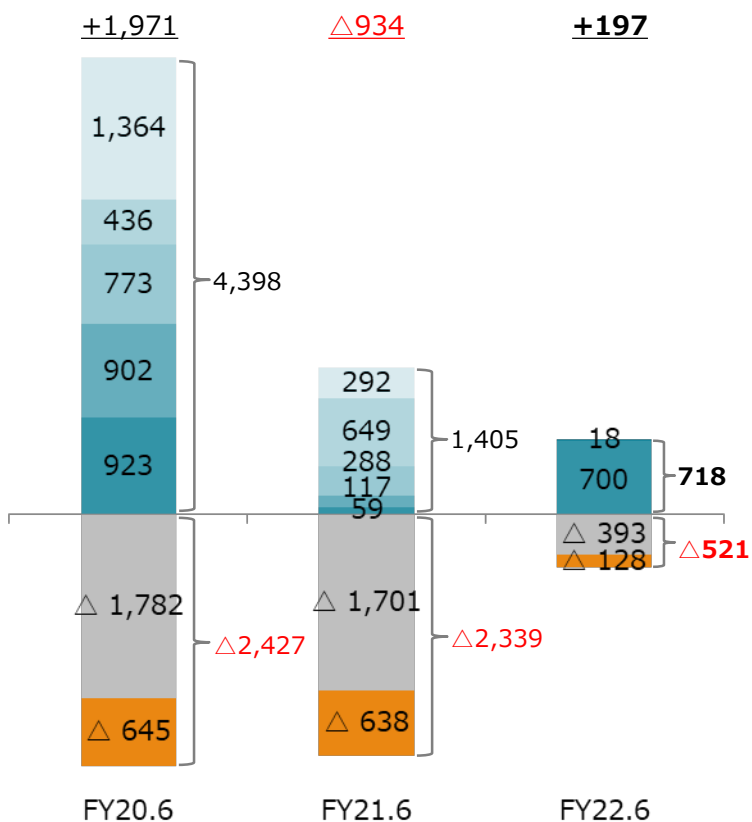
- FY22.6 1Q末の国内技術者数は**20,527人**（21.6末比 +197人）、うち日本在住外国籍は**879人**（21.6末比 △42人）
- FY22.6 1Qの平均稼働率は**95.5%**（前年同期比 +2.9pt）、2Q累計の平均稼働率は**95.5%**を見込む（前年同期比 +1.8pt）
- 海外拠点の技術者数は**2,869人**（21.6末比 +899人、うちRobosoft社の技術者数**966人**を含む）



# 採用/退職の推移 (国内)

- FY22.6 1Qの採用数 (M&Aによる18人を含む) は**718人** (前年同期比 +659人)、2022年4月の新卒入社は約**800人**を見込む
- FY22.6 1Qの退職者数は**521人** (前年同期比 △171人)、うち正社員は**393人** (前年同期比 △65人)、契約社員は**128人**
- FY22.6 1Qの正社員退職率\*は**7.7%** (前年同期比 △1.1pt)、直近2年間で最も低い退職率となり、LTMでも退職率の改善が進む
- FY22.6 1Qの純増減数は**+197人**、今期は退職を上回る中途採用を行い、前月比の純増を継続

## 純増減数 (人)



## 採用数/退職者数の推移 (人)

	FY20.6	FY21.6	FY22.6 1Q	前年同期比	
				数値	変化
<b>全採用数</b>	<b>4,398</b>	<b>1,405</b>	<b>718</b>	—	—
M&Aによる技術者獲得	0	0	18	—	—
新卒採用	1,364	292	—	—	—
第4四半期中途採用	436	649	—	—	—
第3四半期中途採用	773	288	—	—	—
第2四半期中途採用	902	117	—	—	—
第1四半期中途採用	923	59	700	+641	+1086.4%
<b>全退職者数</b>	<b>2,427</b>	<b>2,339</b>	<b>521</b>	—	—
正社員	1,782	1,701	393	—	—
契約期間満了者等	645	638	128	—	—

## 正社員退職率\*の推移

	FY20.6				FY21.6				FY22.6			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
四半期	8.6%	7.8%	8.6%	10.1%	8.8%	8.2%	8.1%	8.3%	7.7%	—	—	—
今期累計 (YTD)	—	8.2%	8.3%	8.8%	—	8.5%	8.4%	8.4%	—	—	—	—
直近12ヶ月累計 (LTM)	8.5%	8.7%	8.3%	8.8%	8.9%	8.9%	8.8%	8.4%	8.1%	—	—	—

\* 正社員退職率には、契約社員の契約期間満了による退職を含みません

# 『技術領域別』 稼働技術者数（国内）

- 稼働率は既に通常レベルに回復し、稼働技術者数は、前月比のみならず、前年比でもプラスに転じる
- 顧客の収益状況や将来見通しの良化に伴い、R&DやIT・デジタル投資需要は全般的に強まることが見込まれるので、ソフトウェア領域を中心とした採用と研修の更なる強化により、平均売上単価の上昇を図りながら、稼働技術者数を増やすことに引き続き注力

FY21.6 1Q末

稼働技術者数：19,374人

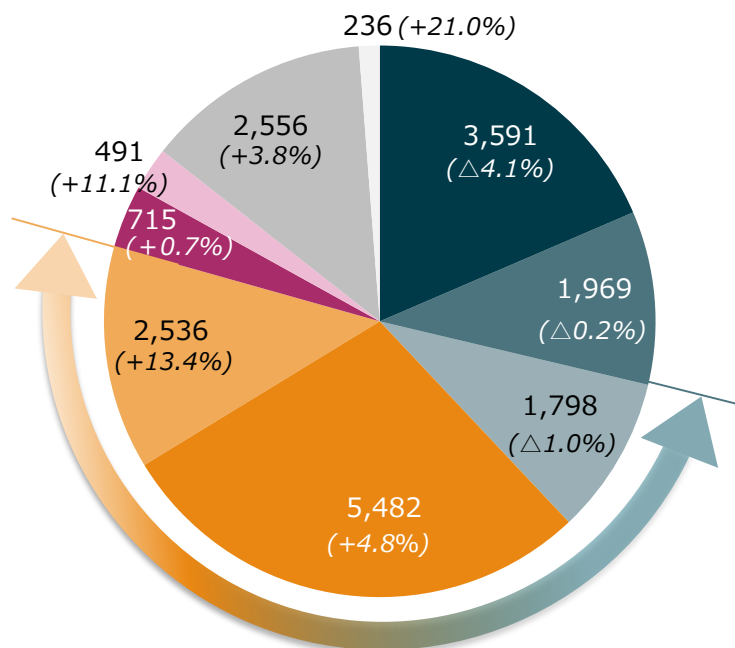
FY22.6 1Q末

稼働技術者数：19,632人

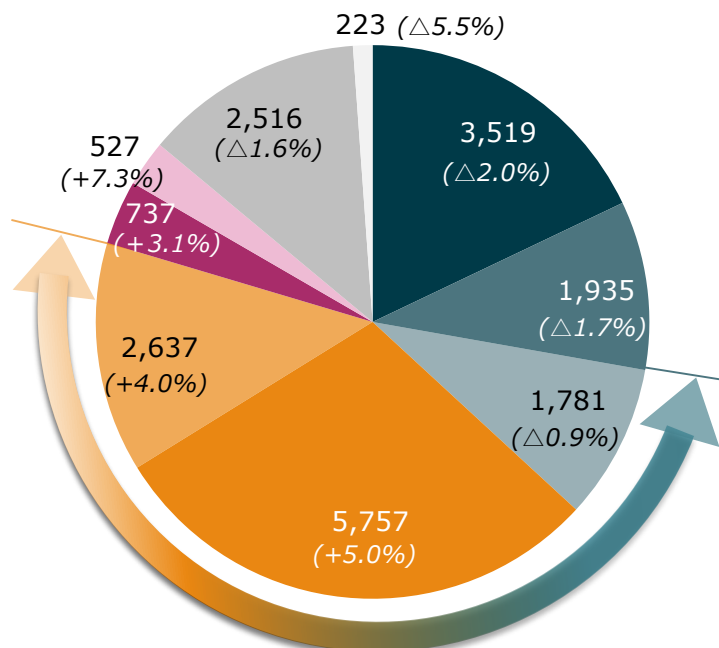
(人)

+1.3%

+258人



IT技術者が  
占める割合：50.7% (9,816人)

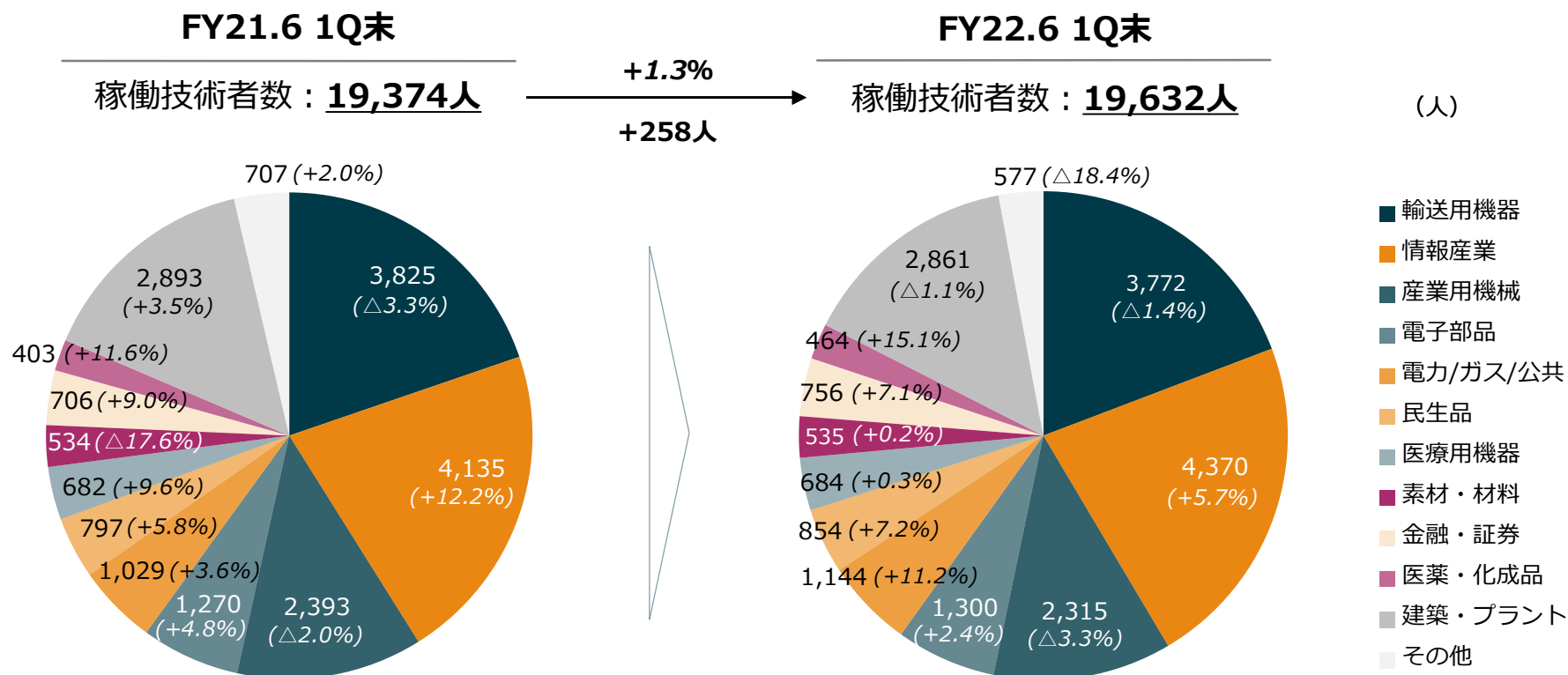


IT技術者が  
占める割合：51.8% (10,175人)

- 機械
- 電気・電子
- 組込制御
- ソフト開発/保守
- ITインフラ
- 化学
- バイオ
- 建設
- その他

# 『産業分野別』稼働技術者数（国内）

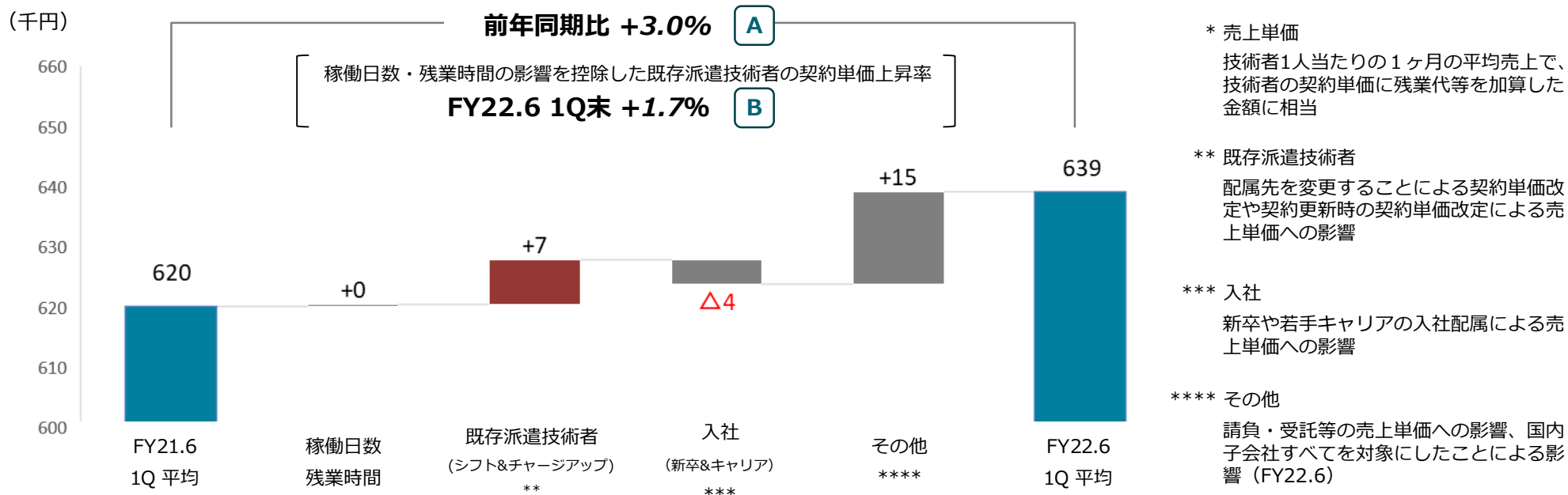
- 輸送用機器メーカーによる自動運転やEV関連への投資は底堅いが、アジアのCOVID-19再拡大による開発需要への影響を注視
- 半導体に関連した産業用機械や電子部品など、引き続きオーダーは好調
- 情報産業の需要は旺盛だが、配属には一定のスキルや経験を求められる一方、教育研修前提の未経験者採用の開始時期を模索



# 月次平均売上単価の推移（国内）

FY22.6より、国内子会社すべてを対象（エデルタ社、プロビズモ社、トクオ社を新たに追加）

- FY21.6 1Qの月次平均売上単価\*は **639千円**（前年同期比 +19千円/月、+3.0%）
- 稼働日数減（△0.18日/月）・残業時間増（+1.09時間/月）の結果、+0.3千円/月の売上単価増加
- シフトアップ/チャージアップ戦略による既存派遣技術者の契約単価（ベースチャージ）上昇により、+7千円/月の売上単価増加
- 新卒及び若手キャリアの入社配属により、△4千円/月の売上単価減少

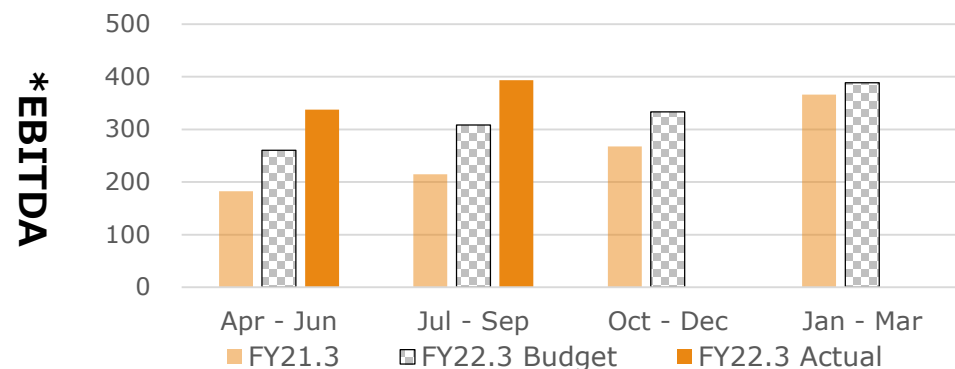
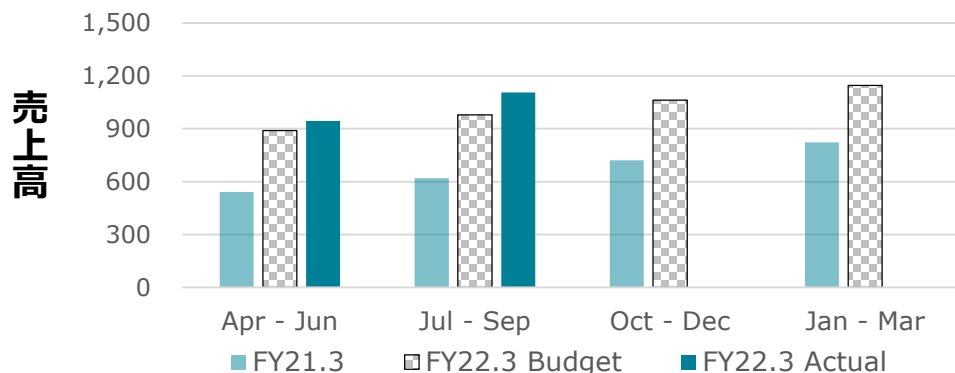


	FY21.6				FY22.6			
	1Q	2Q (累計)	3Q (累計)	4Q (累計)	1Q	2Q (累計)	3Q (累計)	4Q (累計)
平均売上単価 (千円/月)	620	628	632	634	639	—	—	—
前年同期比 <b>A</b>	△1.0%	△0.4%	△0.2%	+0.7%	+3.0%	—	—	—
スナップショット	1Q末	2Q末	3Q末	4Q末	1Q末	2Q末	3Q末	4Q末
既存派遣技術者 契約単価上昇率 <b>B</b>	+3.4%	+2.6%	+2.3%	+0.7%	+1.7%	—	—	—
※ 各四半期末時点の前年同期比								

# Robosoft社の状況

- 今年度上半期（2021年4月～9月）の売上高及びEBITDAは、それぞれ**20.5億円**、**7.3億円**（前年同期比+77%、+84%成長、利益率35.6%）となり、期初予算も上回って進捗、特にアメリカ顧客のデジタル予算拡大の追い風を受けて、同市場への浸透が進む
- 現在、ビジネス面及び管理面のPMIを並行して進めており、年内にも、共同での日本の顧客開拓を開始予定
- Robosoft社のB/Sは、2021年9月末に連結済み（同社のネットキャッシュ残高**12.5億円**含む）で、P/LはFY22.6 2Qより連結予定（現在算定中のPPA資産の償却費は、当社の連結営業利益にヒットするため、当該M&Aによる当期P/Lインパクトを確認中）

（百万円、1ルピー=1.5円換算）



\* EBITDAは、取引費用等の特別項目を除く

## Robosoft社買収の狙い

- 日本におけるデジタル関連の人材や技術力の供給制約を克服し、DX関連の新たな顧客ニーズに対応
  - デジタル領域の技術・ソリューションのケイパビリティ獲得
  - インドオフショア中核拠点の構築
  - 今後のインドにおけるBolt-on型M&Aの受け皿としても期待

## 日本市場における戦略

- メディア・金融・リテール/EC業界の日本における新規顧客獲得
- 当社既存顧客へのクロスセル・アップセルとソリューション開発
  - 従来技術とデジタル技術との融合
- インドの優秀なエンジニア資源の活用
  - 国内オンサイト・オフショア
  - デジタル領域における当社エンジニアの育成促進

# 2022年6月期 業績予想

- FY22.6は、COVID-19による影響を受けたFY21.6対比で、売上高は増収を見込む一方、雇調金収入の剥落、採用費を含む事業の正常化に向けた費用増、新中計遂行のための先行投資がかさみ、事業利益では△6.5%、営業利益では△15.2%の減益を見込む
- FY22.6 1Q実績を踏まえ、**上半期主要KPIのみ修正**（2Q以降のRobosoft社業績は、PPA資産償却費確定後、通期予想に反映予定）

(百万円)

	上半期					通期				
	FY20.6 (実績)	FY21.6 (実績)	FY22.6 (予想)	前年同期比		FY20.6 (実績)	FY21.6 (実績)	FY22.6 (予想)	前年比	
売上高	79,037	79,451	84,000	+4,548	+5.7%	158,407	161,316	170,000	+8,683	+5.4%
事業利益	8,111	8,291	7,300	△991	△12.0%	16,265	17,639	16,500	△1,139	△6.5%
事業利益率	10.3%	10.4%	8.7%	△1.7pt		10.3%	10.9%	9.7%	△1.2pt	
営業利益	8,221	9,680	7,300	△2,380	△24.6%	15,772	19,461	16,500	△2,961	△15.2%
営業利益率	10.4%	12.2%	8.7%	△3.5pt		10.0%	12.1%	9.7%	△2.4pt	
税引前当期利益	8,191	9,645	7,250	△2,395	△24.8%	15,843	19,472	16,400	△3,072	△15.8%
当期利益	5,654	6,623	5,000	△1,623	△24.5%	10,825	13,245	11,300	△1,945	△14.7%
当期利益率	7.2%	8.3%	6.0%	△2.4pt		6.8%	8.2%	6.6%	△1.6pt	
1株当たり当期利益 (円) *	52.12	61.48	46.41	△15.07	△24.5%	99.99	122.96	104.89	△18.07	△14.7%
1株当たり配当金 (円) *	16.67	16.67	20.00	+3.33	+20.0%	50.00	61.67	53.00	△8.67	△14.1%

主要KPI	上半期					通期				
	FY20.6 (実績)	FY21.6 (実績)	FY22.6 (予想)	前年同期比		FY20.6 (実績)	FY21.6 (実績)	FY22.6 (予想)	前年比	
国内技術者数 (期末時点、人)	20,012	20,189	20,680	+491	+2.4%	21,264	20,330	21,600	+1,270	+6.2%
国内採用人数 (人)	1,825	176	1,375	+1,199	+681.3%	4,398	1,405	3,400	+1,995	+142.0%
国内平均稼働率	95.7%	93.7%	95.5%	+1.8pt	—	94.0%	94.6%	95.0%	+0.4pt	—
国内平均売上単価 (千円/月)	631	628	647	+19	+3.0%	630	634	645	+11	+1.7%

# 2022年6月期 セグメント別業績予想（通期）

- ・ R&Dアウトソーシング：採用本格化による稼働人数増で増収となるが、主に採用費増、先行投資、雇調金剥落で大きく減益を想定
- ・ 施工管理アウトソーシング：採用費を含む販管費の増加をGPの改善額の範囲内に抑え、何とか増益を目指す
- ・ 国内その他：人材紹介事業の不確実性はあるものの、売上・利益ともに前年並みを見込む
- ・ 海外：COVID-19回復による大幅な増収を見込むが、販管費も正常に戻り利益率が下がるため、増益幅は比較的小さい

(百万円)

	R&Dアウトソーシング				施工管理アウトソーシング				国内その他				国内小計			
	FY20.6	FY21.6	FY22.6	前年比	FY20.6	FY21.6	FY22.6	前年比	FY20.6	FY21.6	FY22.6	前年比	FY20.6	FY21.6	FY22.6	前年比
売上高	126,179	127,870	134,200	+4.9%	19,787	19,670	20,500	+4.2%	4,103	3,800	3,800	△0.0%	150,071	151,341	158,500	+4.7%
連結売上高に占める割合	79.7%	79.3%	78.9%		12.5%	12.2%	12.1%		2.6%	2.4%	2.2%		94.7%	93.8%	93.2%	
営業利益	12,880	15,815	12,600	△20.3%	2,109	2,791	2,800	+0.3%	△139	315	300	△5.0%	14,850	18,922	15,700	△17.0%
営業利益率	10.2%	12.4%	9.4%		10.7%	14.2%	13.7%		△3.4%	8.3%	7.9%		9.9%	12.5%	9.9%	
PPA資産償却前営業利益	12,960	15,895	12,710	△20.0%	2,517	2,791	2,800	+0.3%	367	315	300	△5.0%	15,845	19,002	15,810	△16.8%
PPA資産償却前営業利益率	10.3%	12.4%	9.5%		12.7%	14.2%	13.7%		9.0%	8.3%	7.9%		10.6%	12.6%	10.0%	
技術者数（期末時点、人）	18,471	17,692	18,840	+6.5%	2,793	2,638	2,760	+4.6%	—	—	—	—	21,264	20,330	21,600	+6.2%
うち日本在住外国籍（人）	1,082	817	—	—	96	104	—	—	—	—	—	—	1,178	921	—	—

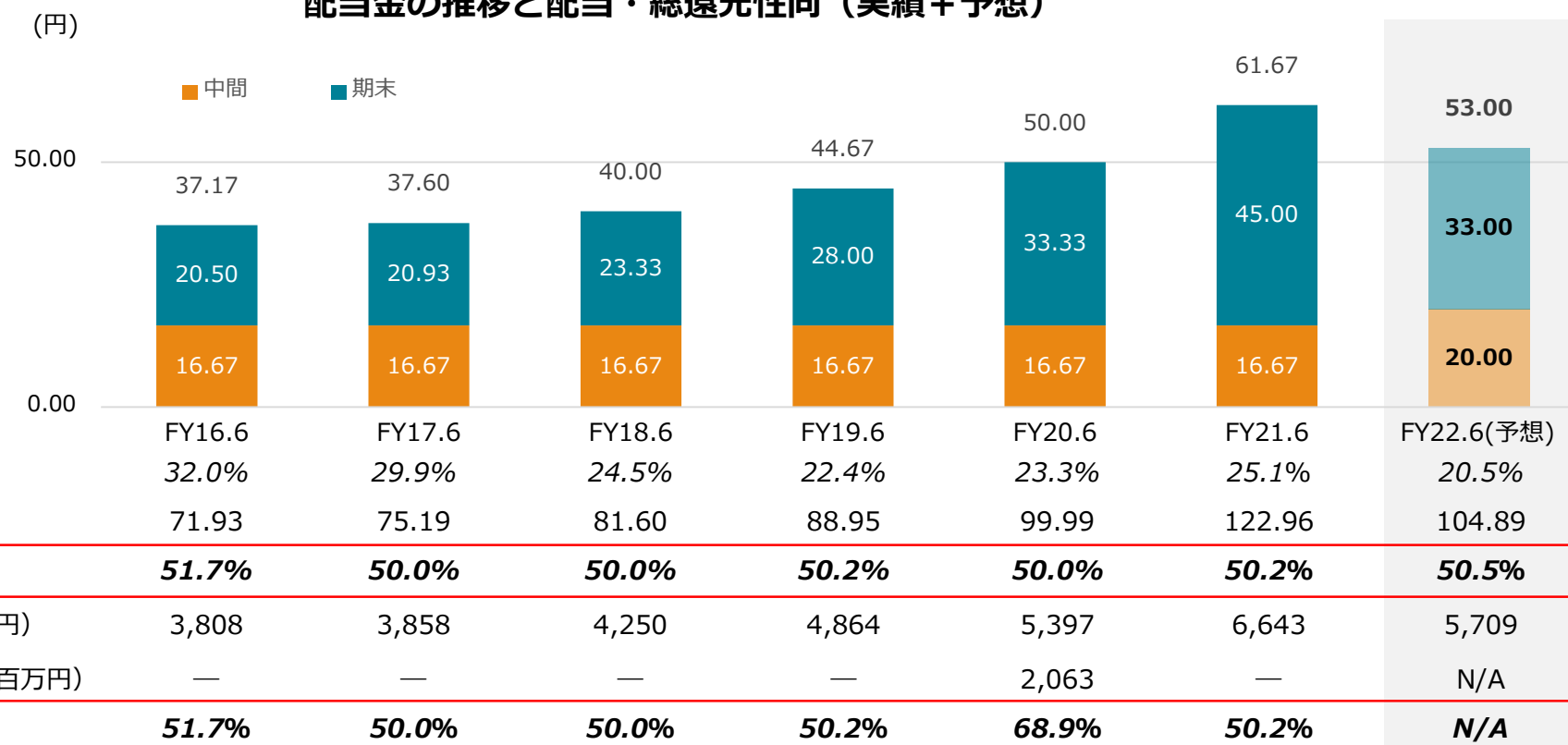
	海外				報告セグメント合計				全社/消去*				連結合計			
	FY20.6	FY21.6	FY22.6	前年比	FY20.6	FY21.6	FY22.6	前年比	FY20.6	FY21.6	FY22.6	前年比	FY20.6	FY21.6	FY22.6	前年比
売上高	9,941	11,432	13,000	+13.7%	160,012	162,773	171,500	+5.4%	△1,605	△1,456	△1,500	—	158,407	161,316	170,000	+5.4%
連結売上高に占める割合	6.3%	7.1%	7.6%		101.0%	100.9%	100.9%		△1.0%	△0.9%	△0.9%		100.0%	100.0%	100.0%	
営業利益	655	764	800	+4.6%	15,506	19,687	16,500	△16.2%	266	△226	0	—	15,772	19,461	16,500	△15.2%
営業利益率	6.6%	6.7%	6.2%		9.7%	12.1%	9.6%		—	—	—		10.0%	12.1%	9.7%	
PPA資産償却前営業利益	858	974	1,000	+2.6%	16,704	19,977	16,810	△15.9%	119	△267	0	—	16,824	19,709	16,810	△14.7%
PPA資産償却前営業利益率	8.6%	8.5%	7.7%		10.4%	12.3%	9.8%		—	—	—		10.6%	12.2%	9.9%	
技術者数（期末時点、人）	1,331	1,970	—	—	22,595	22,300	—	—	—	—	—	—	22,595	22,300	—	—



# 株主還元

- 配当については、中間配当及び期末配当を年2回安定的に行うことを基本とし、COVID-19の影響を大きく受けたFY21.6においても、これまでと同様に年間の配当性向は50%とし、FY22.6以降も年間配当性向50%を維持
- 50%配当還元後のフリーキャッシュフローは、M&A等の成長投資に充当する予定だが、資本コストを上回る十分なリターンを確保できる投資機会がしばらく見当たらないようであれば、資本効率性の観点から自己株取得による株主還元も柔軟に検討

配当金の推移と配当・総還元性向（実績＋予想）

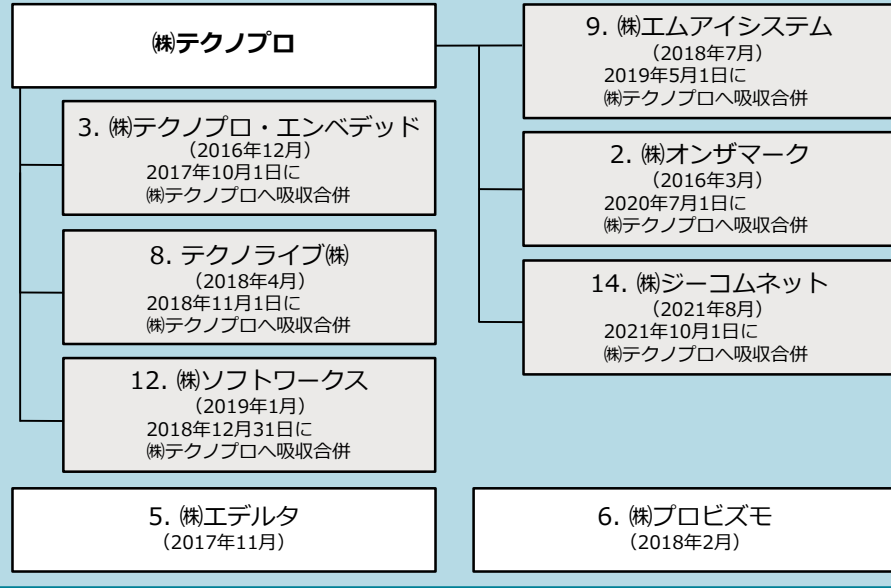


※ 配当金及びEPSは、2021年7月1日効力発生の株式分割（1対3）後の株式数を基準  
FY18.6までは繰越欠損金による法人所得税費用の控除があったため、ROEは実力値より高く推移

# Appendix) セグメント表 (2022年6月期 第1四半期末現在)

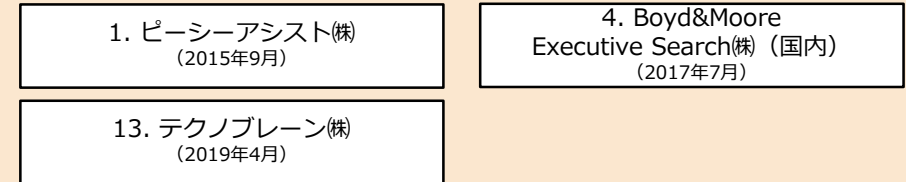
## R&Dアウトソーシング

機械、電気・電子、組込制御、ITネットワーク、ビジネスアプリケーション、システム保守運用、生化学等の技術領域において、技術者派遣及び請負業務を提供



## 国内その他

人材紹介業務、技術系教育研修業務を提供



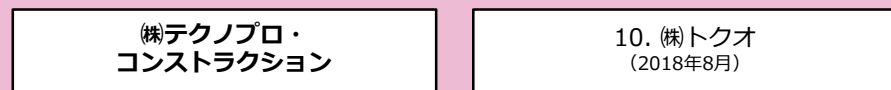
## 海外

中国にて技術アウトソーシング及び人材紹介業務、東南アジア・インドにて技術者派遣及び受託開発業務（欧米や日本の顧客へのオフショア・デリバリーを含む）、英国にて技術者派遣及び人材紹介業務を提供



## 施工管理アウトソーシング

建築・土木・設備電気・プラント領域における施工管理（安全管理、品質管理、工程管理、原価管理）の技術者派遣業務、建設図面作成の請負業務を提供



## 本社機能

グループ会社に対して主に管理業務を提供、障がい者雇用事業を展開



# Appendix) リスク資産 (2022年6月期 第1四半期末現在)

- R&D/施工管理アウトソーシングセグメントの主なのれん (**292億円**) は、投資ファンドと経営陣によるMBO時に生じたもので、COVID-19の影響を反映して新たに試算した使用価値は各CGUの帳簿価額を大きく上回っており、**減損リスクは極めて低い**
- M&Aで新たに生じたR&Dアウトソーシングののれん (**40億円**) も、MBO時のCGUに統合されており、**減損リスクは極めて低い**
- Orion社：Put Optionの一部 (20%) が2021年9月に**7億円**で行使され、株式持分は83.2%に上昇、PO債務はその分減少
- Robosoft社：第2回株式取得 (20%) の想定価格 (**36億円**) を債務認識、買収支払対価合計 (100%) がRobosoft社の純資産を上回る額 (**105億円**) のすべてをのれんに暫定計上、FY22.6 2Q末までに、PPA資産に割り振られる額とその償却期間を確定予定

(百万円)

資金生成単位 (CGU)	株式持分	のれん				PPA資産		PO・株式取得債務	
		MBO	M&A*	合計	割合	M&A*	償却期間	M&A	償算定期間
<b>R&amp;Dアウトソーシング</b>									
機械、電気・電子領域	100.0%	13,674	977	14,651	31.2%				
組込制御、ITインフラ領域	100.0%	7,969		7,969	17.0%				
ソフト開発・保守領域	100.0%	2,912	3,007	5,919	12.6%	1,005	~32.7月		
化学、生化学領域	100.0%	1,262		1,262	2.7%				
<b>施工管理アウトソーシング</b>									
施工管理領域	100.0%	3,383		3,383	7.2%				
トクオ	100.0%		190	190	0.4%				
<b>国内その他</b>									
ピーシーアシスト	100.0%		96	96	0.2%				
Boyd&Moore Executive Search	100.0%		1,104	1,104	2.3%				
テクノプレーン	100.0%		151	151	0.3%				
<b>海外</b>									
Helius	51.0%		703	703	1.5%	555	~26.3月	1,796	17.4~22.6月
Orion	83.2%		1,092	1,092	2.3%	406	~26.9月	641	18.4~23.6月
Robosoft	80.0%		10,481	10,481	22.3%	N/A	N/A	3,623	21.4~22.3月
合計		<b>29,202</b>	<b>17,805</b>	<b>47,007</b>	<b>100.0%</b>	<b>1,967</b>		<b>6,060</b>	

# 目次

---

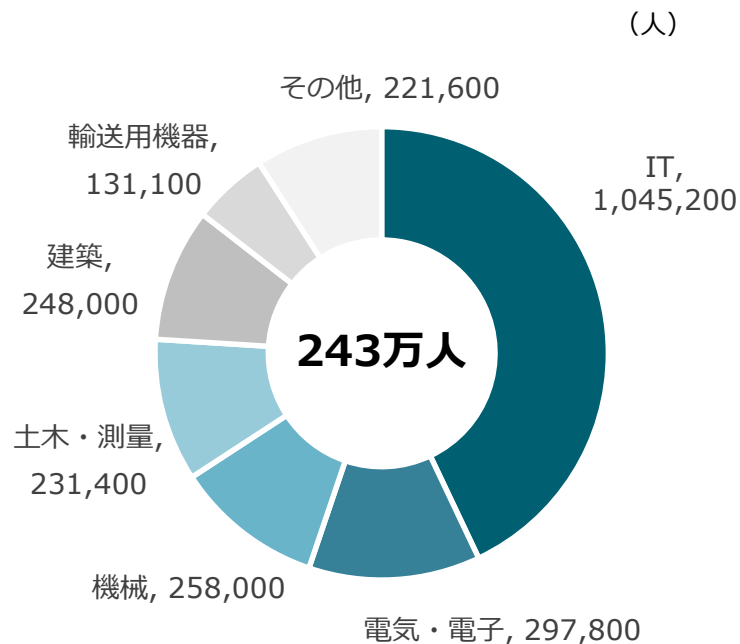
	Page
I : 業績概要	2
II : KPI分析 (国内)	8
i : 技術者数・稼働率	8
ii : 売上単価	12
III : Robosoft社の状況	13
IV : 業績予想	14
V : 株主還元	16
VI : Appendix	17
VII : データ資料集	20

# 日本の技術者の分布

- 2015年の国勢調査によると、日本の技術者数は243万人（うち約4割をIT技術者が占める）
- 日本は他国と比べ、技術者を自社で抱えず、外部委託（アウトソース）する割合が高い

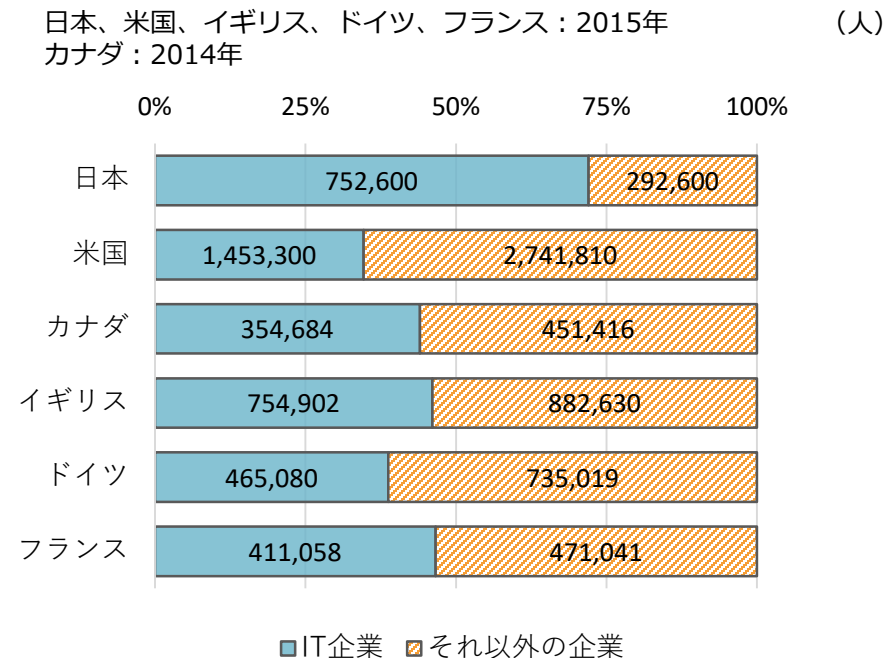
## 1. 日本の技術者数（2015年）

出典：『国勢調査2015年』より当社作成



## 2. IT企業とそれ以外の企業に所属するIT人材の割合

出典：独立行政法人情報処理通信機構『IT人材白書2017』



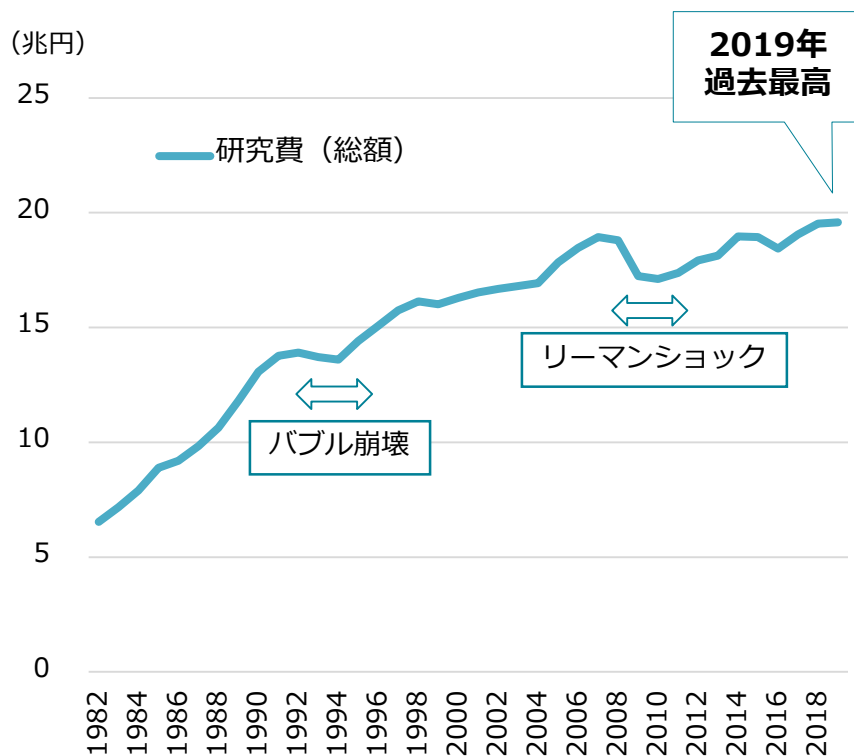
※ 「IT企業」はITベンダー、「それ以外の企業」はITを使用するユーザー企業を指す

# 研究開発費・ICT投資額の推移

- 研究開発は景気の影響を受けにくい分野であり、2019年は過去最高の国内研究開発費を記録し、今後も増加する見込み
- 日本のICT投資は、ハードウェアからソフトウェアに徐々に移行している

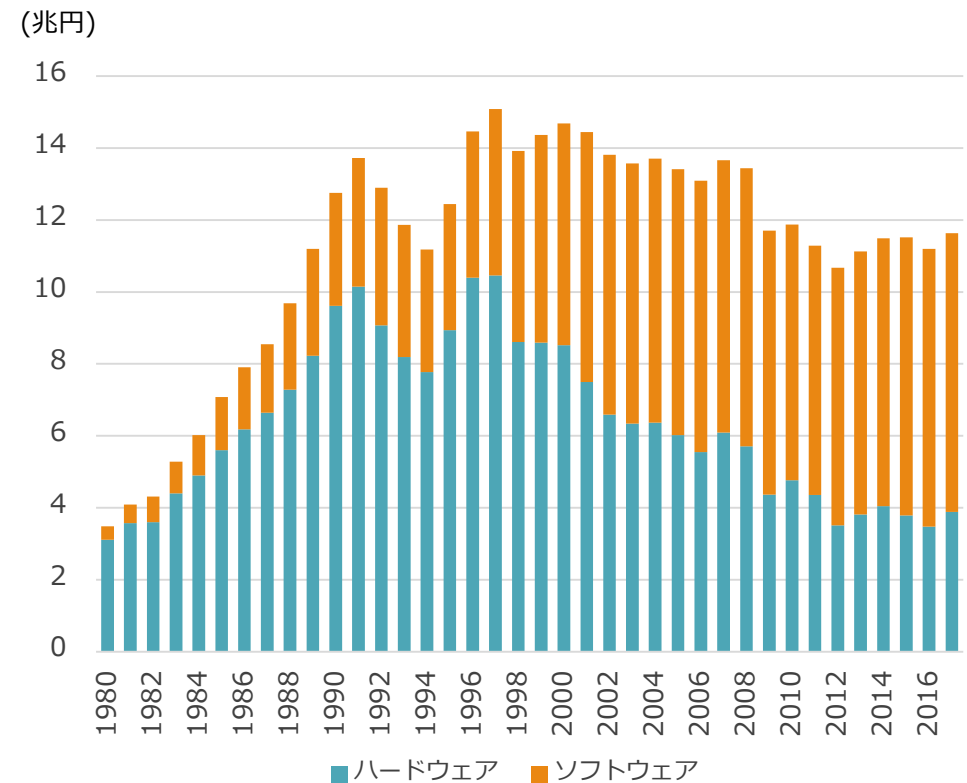
## 3. 国内研究開発費の推移

出典：総務省統計局『科学技術研究調査結果』



## 4. 国内ICT投資額のハード/ソフト内訳

出典：総務省『情報通信白書 令和元年版』

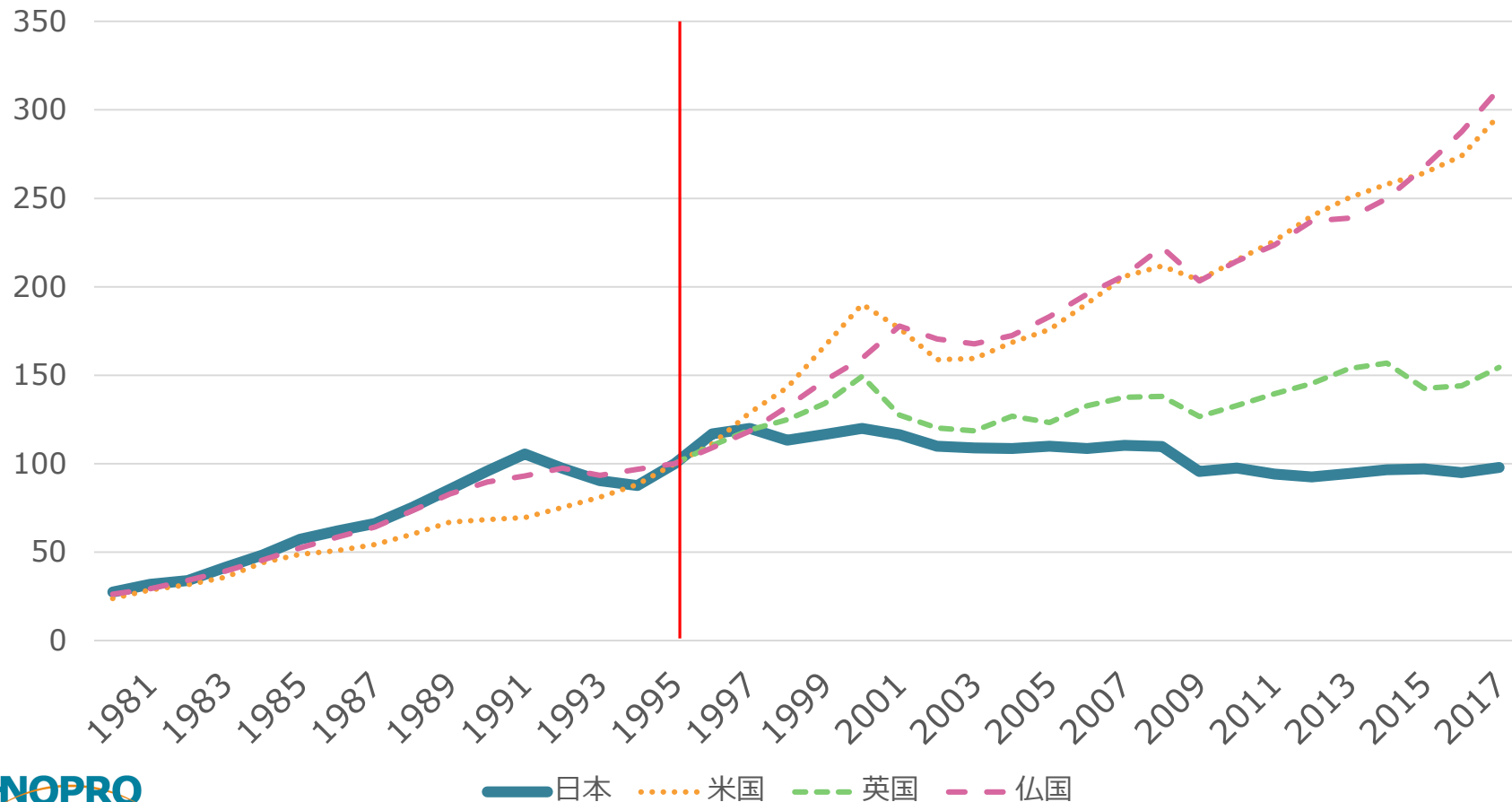


# 日本のデジタル化の遅れ

- 日本のICT投資額は、1995年対比で米国、英国及び仏国と比較して極めて低い伸び
- 日本のデジタル化の遅れがCOVID-19により再認識され、日本における今後のICT投資の拡大が見込まれる

## 5. 各国のICT投資額の推移比較（名目、1995年 = 100）

出典：総務省『情報通信白書 令和元年版』



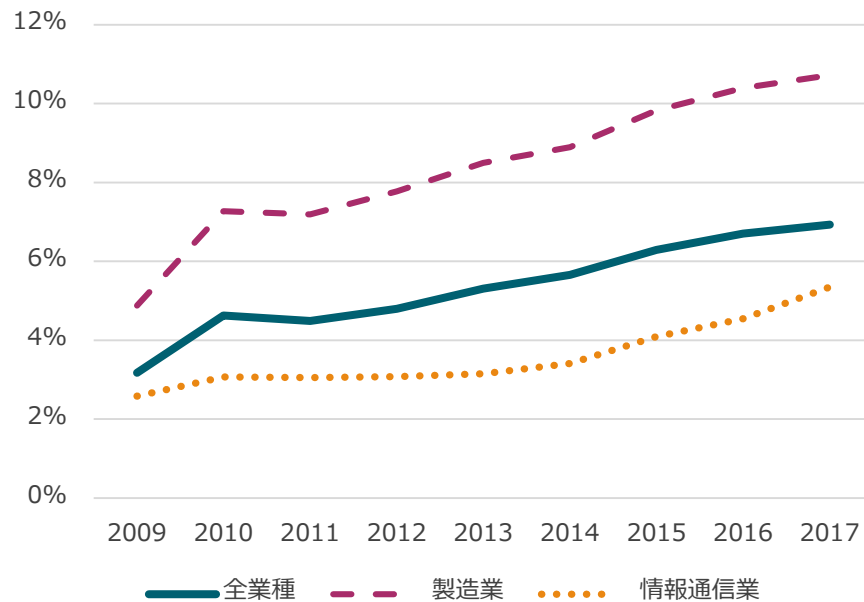
# 研究開発・情報処理関連における外部委託状況

- 全般的に、研究開発・情報処理関連の外部委託率は増加傾向
- 特に、情報通信業でも、情報処理関連業務を外部委託する割合が高い

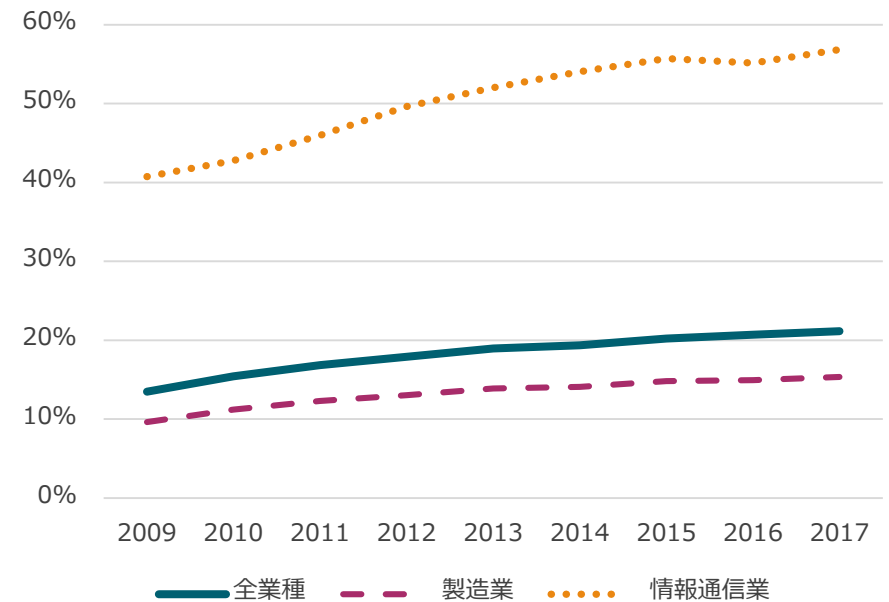
## 6. 業種ごとの外部委託状況

出典：経済産業省 企業活動基本調査、同志社大学STEM人材研究センター 当社委託研究 2020年

### 研究開発関連



### 情報処理関連





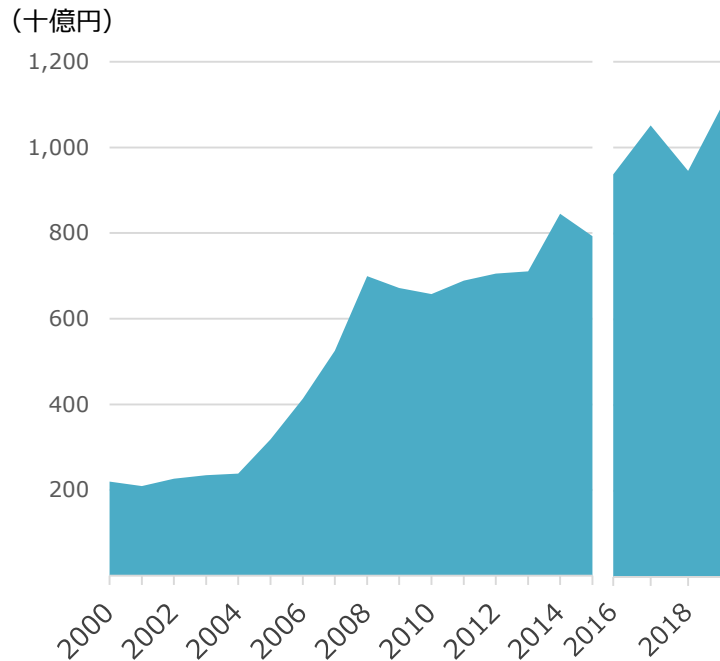
# 技術系人材サービスの市場規模と推移

- 日本の労働者派遣事業全体の推定市場規模は約7.8兆円（2019年）、うち技術者派遣市場は約2.1兆円、技術者数は約28万人
- 矢野経済研究所による将来予測では、技術者派遣市場は年平均成長率（CAGR）6.3%を見込む

## 7. 技術者派遣市場

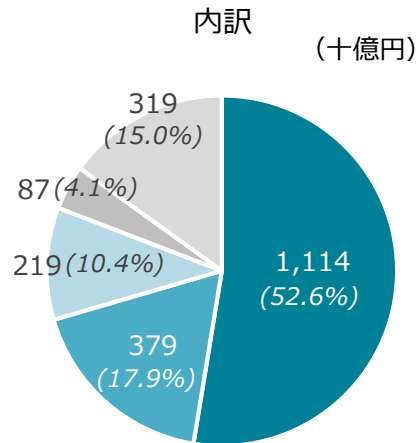
出典：厚生労働省発表に基づき当社試算

推移（ソフトウェア開発）\*



\* 2015年9月に職種の分類が変更されたため、データが断続

2019年 市場規模  
2兆1,180億円

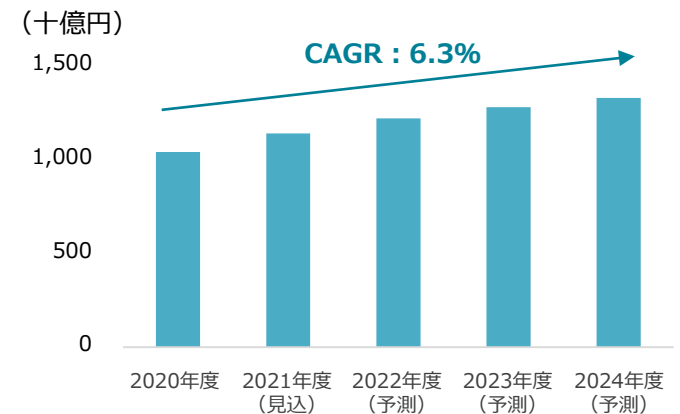


- 10 情報処理・通信技術者
- 0708 製造技術者
- 09 建築・土木・測量技術者
- 05 研究者
- 11 その他の技術者

## 8. 技術者派遣市場の将来予測

出典：株式会社矢野経済研究所

『人材ビジネスの現状と展望2021年版  
PART2 業種・職種別人材サービス編』



※ 事業者売上高ベース、2021年度以降は予測値（2021年10月現在）

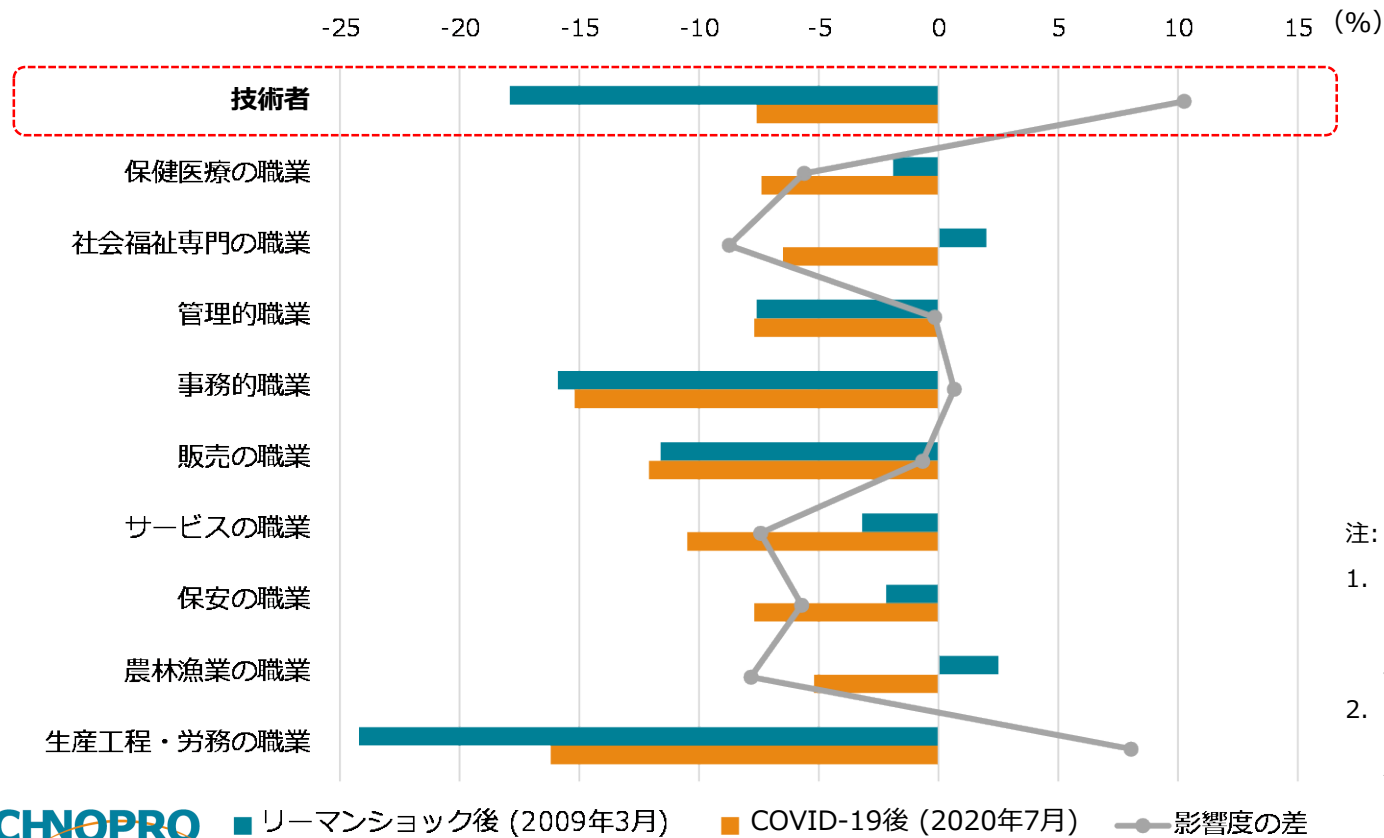
注：矢野経済研究所が独自の調査に基づいて算出した大規模事業者を中心とした市場規模であり、市場全体よりも伸び率が高い可能性あり

# 技術系人材サービスの外的ショックへの耐性

- リーマンショック時と比較すると、今回のCOVID-19第一波における技術者に対する新規求人への影響は大幅に小さかった
- 過去10年間で技術系人材の重要性が高まった、あるいは競争力維持のためのR&DやITシステム開発の優先度合が高まった可能性を示唆しており、当社ビジネスの底堅さを裏付けている

## 9. 外的ショック半年後の新規求人数の増減率とその変化

出典：厚生労働省『一般職業紹介状況（新規求人：パート除く常用）』、同志社大学STEM人材研究センター 当社委託研究 2020年



注:

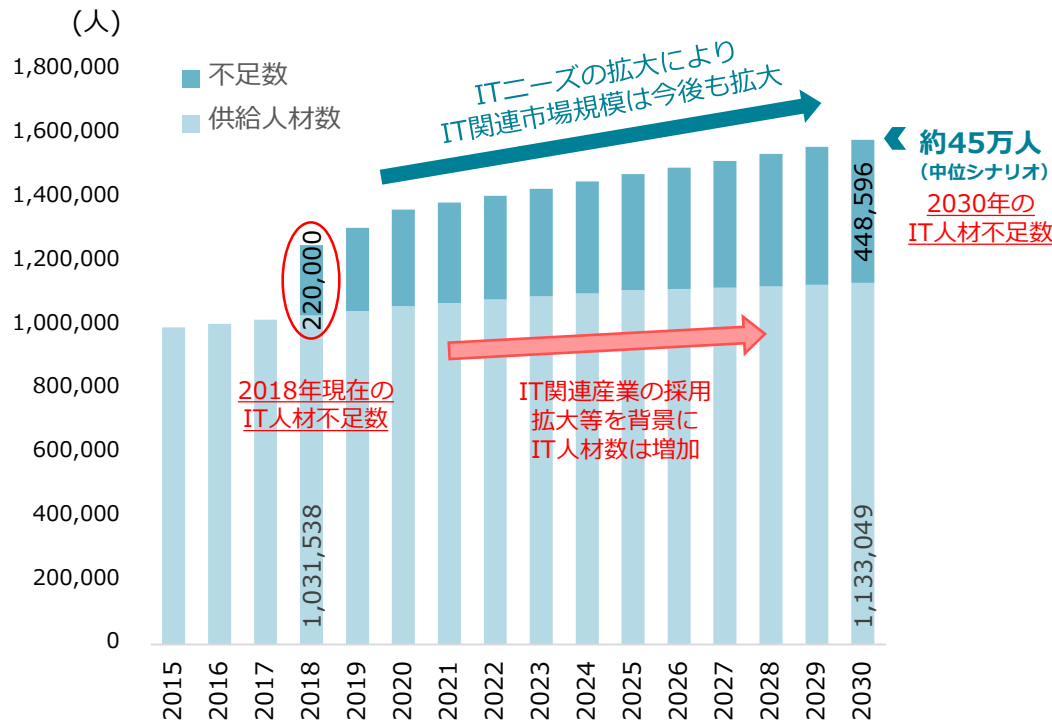
- リーマンショック、COVID-19の影響が、それぞれ発生後6ヶ月経った時点で、各職種に対する新規求人指数にどの程度表れているのかを比較したもの
- リーマンショック半年後の指数値は2008年9月を100、COVID-19半年後の指数値は2020年1月を100とした指数（季節調整済み）

# 技術系人材サービスの成長の背景と当社の優位性① ニーズの増加

- 需給のミスマッチは特にIT人材で大きく、IT分野に強い企業が優位
- AI普及によるエンジニア需要の減退については、新規に創造される需要の方が多い見込み

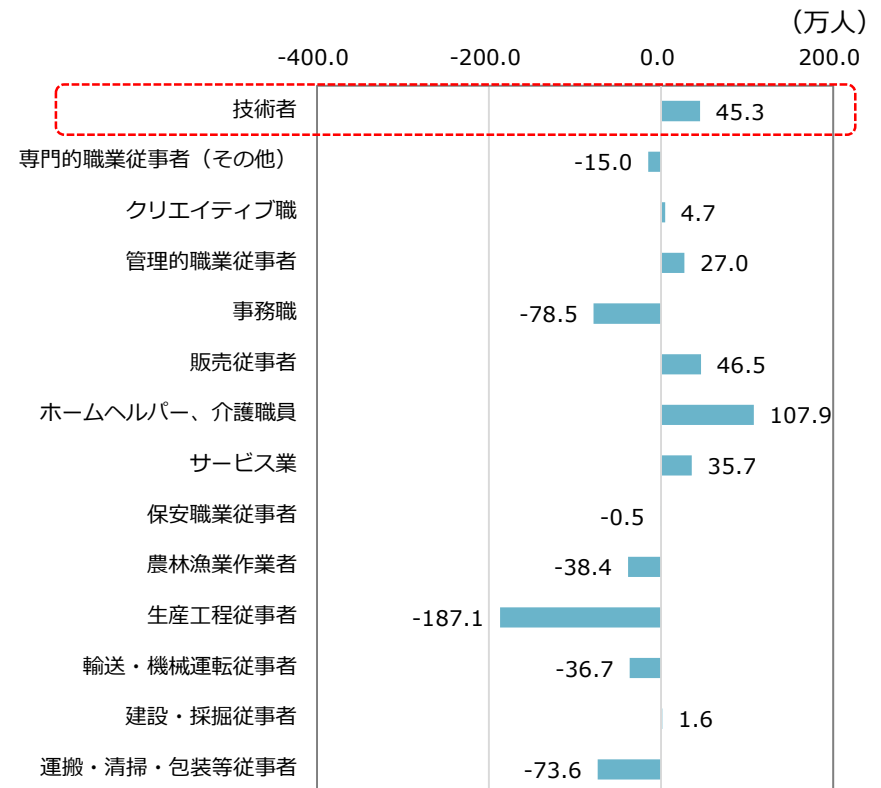
## 10. IT人材の不足規模に関する予測

出典：経済産業省委託事業 みずほ情報総研株式会社  
『IT人材需給に関する調査 調査報告書』より当社作成



## 11. AIの進展等による就業者の増減

出典：厚生労働省 平成29年版労働経済白書『労働経済の分析 -イノベーションの促進とワーク・ライフ・バランスの実現に向けた課題-』



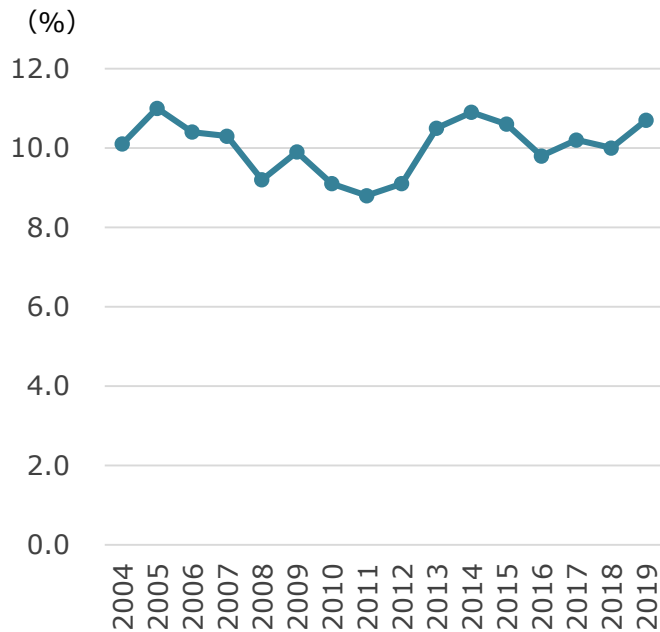
※ 職種別の就業者数は、2015年と2030年を比較した際の推計値

# 技術系人材サービスの成長の背景と当社の優位性② 中途採用市場

- 日本全体の転入职率は10%前後で推移しており、転職市場は一定の規模がある（技術者に限っては、年間20万人以上）
- IT技術者の転入职率は、相対的にその他技術者に比べて高い傾向

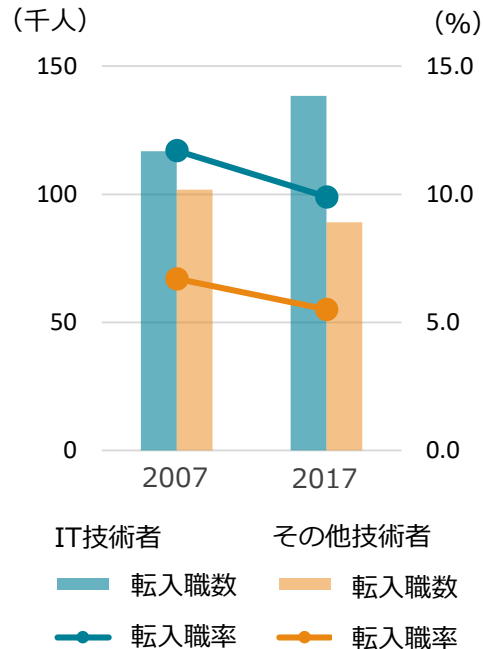
## 12. 転入职率の推移

出典：厚生労働省『雇用動向調査』



## 13. 技術者の転入职率

出典：同志社大学STEM人材研究センター 当社委託研究 2019年  
『「日本の技術者の転入职者率の近年の特徴」調査報告書』



	1997	2007	2017
全職種	11.0	11.7	10.7
技術者	7.5	8.7	7.5
うちIT技術者		11.7	9.9
うちその他技術者		6.7	5.5

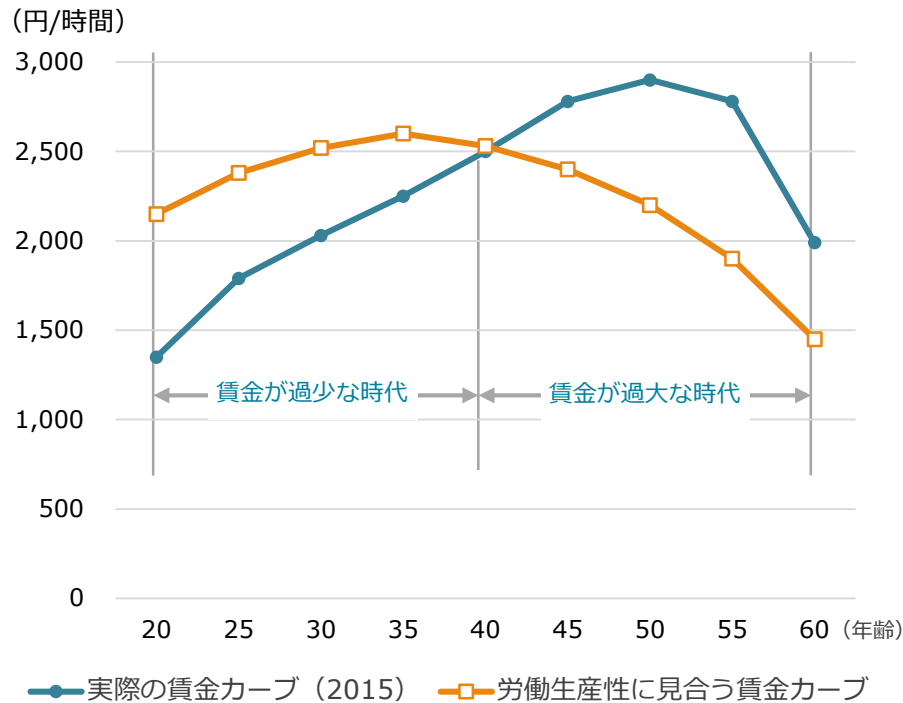
	1997	2007	2017
全職種	7,391	7,717	7,066
技術者	178	219	228
うちIT技術者		117	138
うちその他技術者		102	89

# 技術系人材サービスの成長の背景と当社の優位性② 中途採用市場（続き）

- 年功賃金と終身雇用が根強く残り、若年層の賃金は相対的に低く、中年以降で管理職になることで賃金が上昇
- 生産性と賃金の乖離から、大手企業の中途採用数は限定的

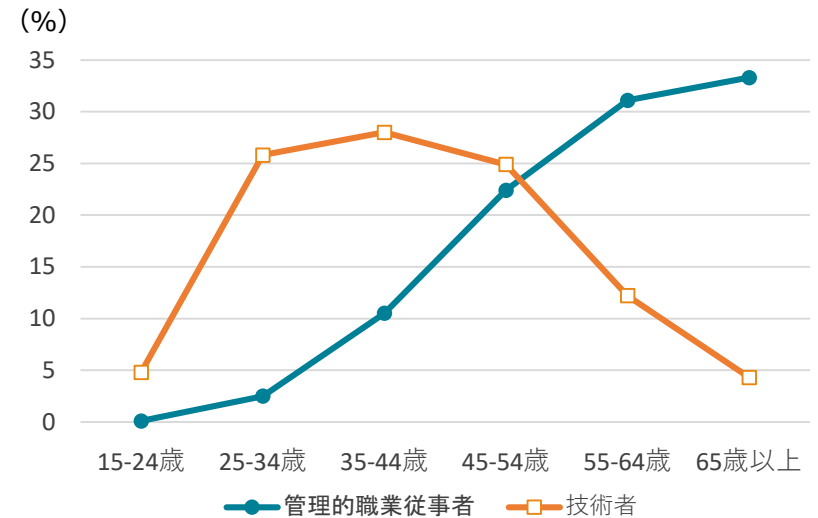
## 14. 年功賃金型賃金カーブと、労働生産性に見合う賃金カーブ（1時間あたり）

出典：三菱UFJモルガン・スタンレー証券投資情報部  
『エクイティリサーチ転載レポート』2017年5月1日



## 15. 職種別年齢構成比較：管理職・技術職（2017年）

出典：同志社大学STEM人材研究センター 当社委託研究 2019年  
『「日本の技術者の転入职者率の近年の特徴」調査報告書』



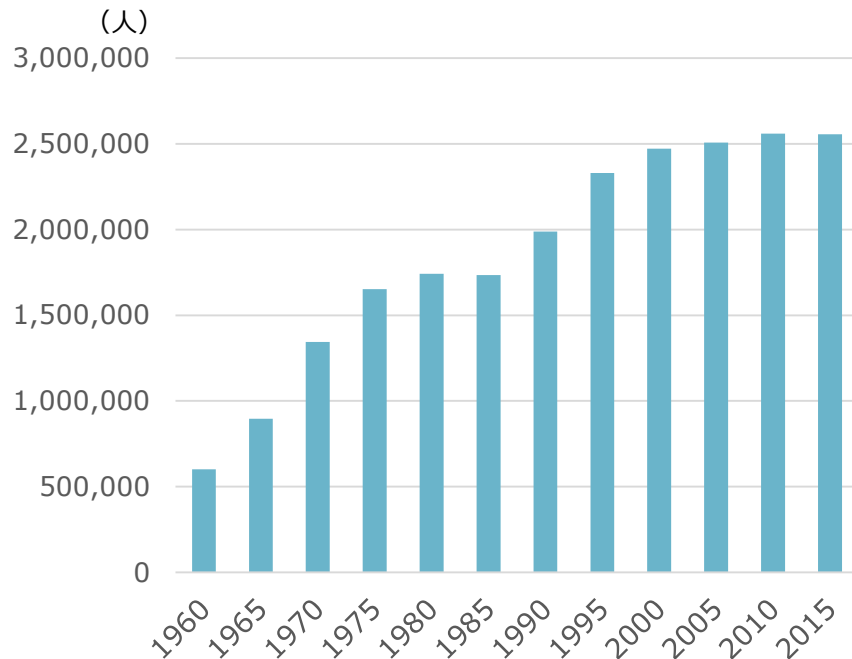
	管理的職業従事者 (%)	技術者 (%)
15-24歳	0.1	4.8
25-34歳	2.5	25.8
35-44歳	10.5	28
45-54歳	22.4	24.9
55-64歳	31.1	12.2
65歳以上	33.3	4.3

# 技術系人材サービスの成長の背景と当社の優位性③ 新卒採用市場

- 若年人口は減少しているが、進学率の上昇により大卒人数は微増を続けている
- 大手企業の大卒採用数は増えていない一方、求職者側の大手志向は根強い

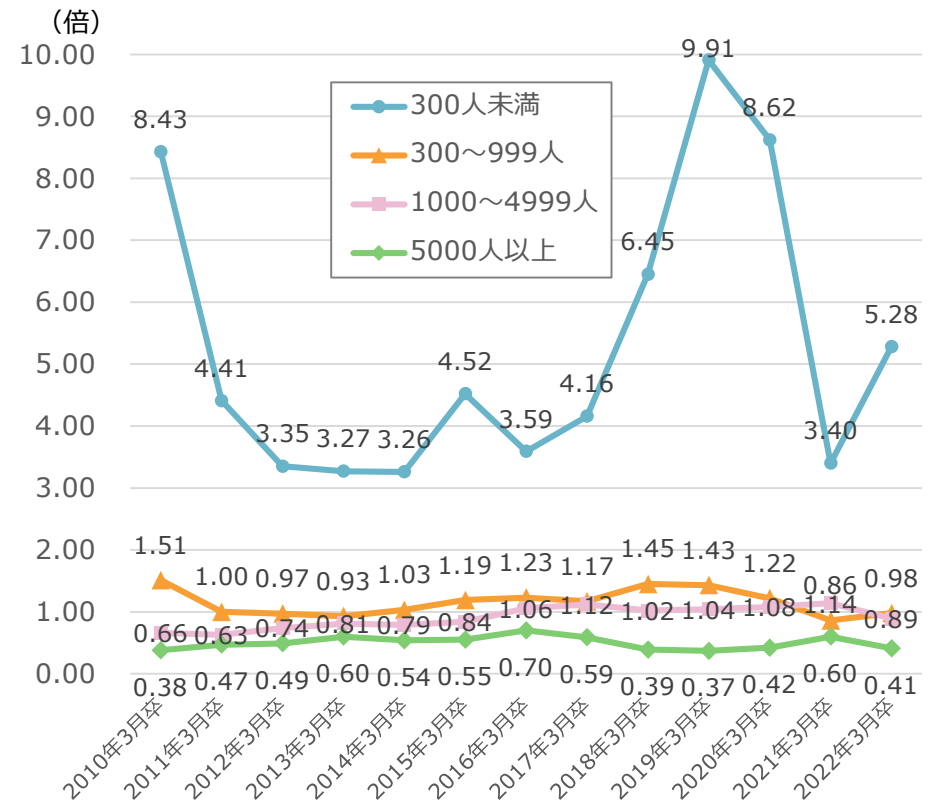
## 16. 大学生数の推移

出典：文部科学省『文部科学統計要覧』



## 17. 従業員規模別 大卒求人倍率

出典：リクルートワークス研究所『第38回ワークス大卒求人倍率調査』



# 免責事項

当社は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき、本資料を作成しておりますが、本資料の正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれていますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、複製または転送等を行わないようお願いいたします。

— お知らせ —

当社では、Webサイトにおける新着情報の更新を、メールにてお知らせするサービスを実施しております。ご希望の方は、右記QRコードよりご登録をお願いいたします。



**TECHNOPRO**

**TECHNOPRO**